

# 第Ⅳ期復元整備事業 本格スタート!

復元空間が広がります!

長崎市では、19世紀初頭の出島をよみがえらせるために、復元整備事業に取り組んでいます。これまでに、建造物16棟の復元や護岸石垣の整備、出島表門橋や旗竿の設置など、様々な事業を進め、出島の西から中央部には往時の街並みが広がっています。

そして現在、出島では、第Ⅰ期、第Ⅱ期、第Ⅲ期復元整備事業に引き続き、第Ⅳ期復元整備事業が進行中です。

第Ⅳ期では、当時「町人部屋」番所「十五番蔵」が建てられていた、出島南側中央部の整備を行います。令和5年度には町人部屋の位置を確定するための再発掘調査を行い、同年から令和6年の2か年にかけて、建造物の基本設計を行いました。令和10年度の公開を目標に、今後は建物や展示内容の詳細設計や、建築工事、周辺の整備を行います。

- 第Ⅰ期(平成12年完成)
  - I-1 料理部屋
  - I-2 ハトル部屋
  - I-3 一番船船頭部屋
  - I-4 一番蔵
  - I-5 二番蔵
- 第Ⅱ期(平成18年完成)
  - II-1 水門
  - II-2 乙名部屋
  - II-3 カピタン部屋
  - II-4 三番蔵
  - II-5 拝礼筆者蘭人部屋
- 第Ⅲ期(平成28年完成)
  - III-1 十六番蔵
  - III-2 筆者蘭人部屋
  - III-3 十四番蔵
  - III-4 乙名詰所
  - III-5 組頭部屋
  - III-6 銅蔵



# 出島かわら版

長崎市  
文化観光部  
出島復元整備室  
令和7年発行

かわら版...  
江戸時代、時事に関する速報を伝えた印刷物のこと。出島から最新情報をお届けします。

どんな屋にならんだらう?



## どんなことをするの??

町人部屋は、出島町人の詰所として使用された建物です。出島町人は、出島の築造に出資した25名の富裕な長崎町人で、出島完成後には、居住するポルトガル人、後にはオランダ人に、所有者として土地と家屋を貸出した人々でした。第Ⅳ期では、当時建物が建てられていた場所に、町人部屋の建物を復元整備します。

出島町人について  
もっと知りたい方は



出島HP  
学芸員コラム

番所は下級検使の詰所として使用された建物、十五番蔵は砂糖やその他輸入品を保管していた蔵です。これらの場所については、建物の復元は行わず、広場として整備し、AR等の映像技術によって往時の建物の姿を再現することを計画しています。また、筆者蘭人部屋の裏手では小庭の整備を行います。

建物に広場、完成が楽しみです!



出島の築造に関わった出島町人に着目し、出島のはじまりや出島と日本人の関係について、より詳しく皆様に知っていただけるよう、整備を進めます!



▲平成23年度 発掘調査現場説明会  
十四番蔵跡・乙名詰所跡の遺構を公開しました。

## 出島発掘調査 総括報告書を作成中!

長崎市では、これまでに「出島和蘭商館跡」で行われた発掘調査について、その成果をわかりやすくとりまとめ、出島の価値を明確にすることを目的として、令和3年度から総括報告書の作成に取り組んでいます。

総括報告書とは?

遺跡の中で行われた発掘調査は、その結果についてまとめた報告を、年報や事業ごとに作成する報告書として刊行します。長年にわたり発掘調査が実施されている重要な遺跡では、たくさんの方の調査成果が蓄積されることから、これらを集約し、総括することによって、現在までに分かっていることを明らかにします。作業の過程で、これまででは分からなかったことが、次第に整理されて、新たな発見につながる

いつから、何回くらい、発掘調査が行われているの?

出島の発掘調査は、昭和44年(1969)に始まり、昭和の時代は、出島の居住者が必要に応じて行う改変に伴った小規模な発掘調査が多かったのですが、平成になってからは、出島の史跡整備を行うための本格的な発掘調査が行われました。

出島和蘭商館跡全体で、小さな発掘調査も合わせると、これまでに47件の発掘調査が行われています。

これまでに分かったことは?

▼19世紀前半の遺構図  
平成元年から平成25年までの検出遺構図面を合体した図

現在作成しているのが、出島から見つかった建物の礎石や道路跡、溝跡などの検出された遺構を年代別に整理してつなげた図面です。全体的な遺構の配置が一目で分かるようになり、オランダ商館の様子や移り変わりが理解できるようになってきました。



出土遺物は何点くらい?

これまでの約半世紀に及ぶ発掘調査で、70万点を超える遺物が見つかりました。そのほとんどは、出島に居住したオランダ商館員たちが実際に使っていたもので、中には当時流行していたガラスや高級な肥前産の食器が含まれ、彼らの暮らしが垣間見えます。また、出島に出入りしていた日本人の役人たち(通詞や番人など)が滞在時に使っていたと思われる茶器や硯なども出土しています。



▲肥前産の染付皿  
中央のVOCの文字はオランダ東インド会社のマーク



▲レマー杯  
オランダ商館員が使用したガラス

いつ、完成するの?

情報量が膨大であることから、まずは遺構編を刊行し、その後に出土遺物編を作成する予定で、令和9年度末の完成を目指しています。

どこで見ることが出来るの?

総括報告書は、主だった公立の図書館や大学附属の図書館に配布し、多くの方が閲覧できるようにします。また、公式HPなどで公開を行う予定です。

# 約1世紀半！明治から残る洋風建築

## 旧出島神学校特集

出島では令和2年度から、出島内にある建物の改修・修理工事を進めており、令和7年度は「旧出島神学校」の修理を行います。工事は9月から翌年2月頃にかけて行われ、工事期間中は建物の外観、内観を見ることができない期間が発生します。今回のかわら版では旧出島神学校とはどのような建物か、ご紹介します！



### 旧出島神学校とは…

出島の東端に建つ2階建ての木造建築で、水色の外観と、十字架のある塔屋が特徴です。現存する国内最古のキリスト教新教（プロテスタント）の神学校の建物です。明治11年（1878）に、チャーチ・スクールとして建てられ、翌年「出島新橋口英和学校」として開校しました。その後「出島新橋口聖公会神学校」と名称を改め神学教育を行い、明治19年（1886）に廃校して以降は渡米宣教師の宿舎として使用されました。

英和学校では、午前には小学校課程、午後には英語と洋裁の授業が行われていました。



明治43年（1910）以降は日本人の手に渡り、眼科病院や外科病院の建物として使用されました。昭和47年（1972）に長崎市が買収してからは、長崎市歴史民俗資料館や出島史料館本館が置かれるなど、様々な活用がなされ今に至ります。現在は、1階を映像コーナーや休憩室、2階を事務室等として活用しています。

復元建物が建つ前の出島において、出島の歴史を伝える役割を果たしました



▲出島史料館本館 展示室写真

よく見ると色々々所に三日月を象すシンボルマークの装飾があるよ！



### 最初は違った？ 建物の姿

当初は今見られるような大型の建物ではなく、塔屋がある西側部分だけが建てられていました。隣接する教会の建物が明治22年（1889）に解体され、翌年に市内に移築されたことに伴い、明治26年（1893）、教会跡地を含めた東側に増築が行われ、現在の姿になりました。

その後、病院としての活用



▲「出島(2)」(部分) (長崎大学附属図書館蔵)



▲「梅香崎洋館群と出島(4)」(部分) (長崎大学附属図書館蔵)

に合わせ、間取りの変更や若干の増築が行われましたが、昭和43～45年（1968～70）にかけて行った保存修理工事の際に、西側部分は明治11年（1878）の姿に、東側部分は明治26年（1893）の姿にそれぞれ建物完成当初の姿に修復しました。

### 建物を守るために…

旧出島神学校は木造の建物です。風雨や自然災害の影響、害虫による被害など、外に建てられている以上、建物はどうしても劣化していきます。



▲昭和43年 保存修理工事前の状態

長崎市では、昭和43年（1968）に建物を購入してから現在までに、建築当時の姿に修復することを目的とした保存修理工事や、経年変化による建物の傷みを解消する修理工事など、建物を保存するための様々な取り組みが行ってきました。

日常的な小さな修繕はもちろん、定期的な外壁の塗装を行うことは、雨や潮風から建物を守り、内部の木材を長寿命化することに繋がります。

貴重な歴史的建造物を今後にも永く現地に残していくためにも、適切な時期に修理工事を行うことが大切です。

### 出島の中に教会建築？

開国後、慶応2年（1866）に外国人居留地として開かれた出島は、市内にあるほかの居留地同様に、借地として貸し出され、通商権を獲得した外国人商人たちの商館や、その倉庫群などが立ち並んでいました。

そのような中、出島の中に居住した各教会の宣教師たちによって、出島の中に教会開



「長崎市街と長崎港(1)」(部分・書き込み) (長崎大学附属図書館蔵)

係の建物が建てられるようになります。明治8年（1875）に、英国教会伝道協会の宣教師によって出島教会が完成し、この教会に関連し、明治10年（1877）頃に牧師館が、明治11（1878）年に英和学校（のちの神学校）が完成しました。

また、明治9（1876）年には、米国メソジスト教会の宣教師によって、出島美以（メソジスト）教会および牧師館が建設されました。

古写真から、東端に教会建築が立ち並ぶ出島の姿を確認することができます。

出島で聖書を学んだのかな？



▲「聖書歴史 創世記」

出島新橋口聖公会神学校が刊行した聖書をわかりやすく広めるための啓蒙書。



### 今はどこに？ 神学校の鐘

旧出島神学校の塔屋は二層にわかれており、下層部は鐘楼として機能していました。鐘楼の内部にはイギリスで製造された鐘が吊り下げられていたが、大正11年（1922）、雲仙岳の噴火に伴う地震の影響で塔屋上層とともに鐘が落下しました。落ちた鐘はメソジスト教会宣教師であったF・スコット氏に買い取られ、様々な経緯を経て、昭和3年（1928）に東京の銀座教会の鐘として第3次会堂に設置されました。その後約半世紀にわたり銀座教会の鐘として活用され、役目を終えた現在も同教会で展示されています。

英和学校のために作られた鐘だったの！



▲銀座教会にて2018年撮影

鐘には、鋳造会社名とその住所、鋳造年である「1878」の文字や、「EPISCOPAL CHURCH NAGASAKI JAPAN」の文字が浮き彫りされています。

【参考文献】  
小林伸夫「銀座の鐘物語」2004年、日本基督教団銀座教会  
長崎史談会編「長崎談叢 第七十二輯 1988年、長崎史談会」  
長崎史談会編「長崎史談 第七十二輯 1988年、長崎史談会」  
長崎史談会編「長崎史談 第七十二輯 1988年、長崎史談会」